

中学校道徳科における「主体的・対話的な深い学び」へのアプローチ ～K中学校の学校研究「話合いで心を磨く」に関わって～

岡部 一宏

1 膝の痛みをとるために腰をアジャストする整体師（序に代えて）

H中学校及びK中学校で校長を務めていたころ、毎年2月に行われる「（4月からの入学を控えた）新入生保護者会」でよく次のような挨拶をした。

私がお世話になっているお医者さん（整体師）は、『膝が痛い』と言うと、膝に直接触れずに腰に触れることによって、膝の痛みをとってくれます。／『風が吹けば桶屋が儲かる』という言葉があります。／かつて卓球日本一になった中学校の卓球部では、新入部員にまず第一に便所掃除の仕方を指導したそうです。

学力向上をめざすとき、学習時間を増やす／学習方法を工夫する／補習授業に参加する／塾に通う／様々なテストを受ける…など、いろいろな手立てがあると思います。

体力向上をめざすなら、運動に親しむ／時にはちょっぴりきびしい練習をする／栄養をしっかり取る／休養も大切…などが、そのための手立てになるはずです。

…が、これらの土台となるもの、それが「心」です。本校では『心を磨く』ことを基盤にして、学力向上・体力向上を図ります。同時に、家庭・地域との連携を大切にして『ふるさとの学校づくり』をめざします。

「心が変われば行動が変わる 行動が変われば習慣が変わる 習慣が変われば人格が変わる 人格が変われば運命が変わる」という言葉がある。野球の松井秀喜氏あるいは野村克也氏の言葉として有名だし、また、ヒンズー教の教えの一部だとも言われている。

つまり、人間の行動の起点はいつも「心」なのではないだろうか。学校現場において、学力向上や体力向上をめざす場合においても、その起点は「心」であると思う。このような考えから、K中学校では学校教育目標を「心を磨く 自ら動く」とした。学校教育目標というと、知・徳・体の三本柱によってまとめられる場合が多いが、K中学校ではあえて「徳」の部分のみを強調し「心を磨く 自ら動く」としたのだった。心磨きを主軸においた教育活動を積み重ねることによってその成果が必ず「学力向上」や「体力向上」にもつながると信じたからである。K中学校において道徳教育の研究に熱い思いを持って取り組むことになるスタートラインは、実はこのような考えからであった。

2 学校研究主題「話合いで心を磨く」の設定にあたって

(1) 学校教育目標及び改正中学校学習指導要領から

前述の通り、K中学校では「心を磨く 自ら動く」を学校教育目標としていた。「心を磨く」ことが学力向上や体力向上の基盤であるという考えによるものである。では、生徒の「心を磨く」ための機会をどこに求めるか。K中学校では(きっと多くの学校がそう考えるように)それを道徳教育に求めた。

道徳教育は、すべての教育活動において行われるものであり、平成31年4月1日から全面实施（平成27年4月1日から移行措置としての実施可）される改正中学校学習指導要領によれば「よりよく生きるための基盤となる道徳性を養う」ことを目標としている。さらに学校教育法

施行規則を改正して「道徳」を「特別の教科である道徳」とし、「考える道徳」「議論する道徳」への転換を図ることは、K中学校の学校研究課題「話し合いで心を磨く」に直結するものであった。

幸いK中学校には道徳の授業力に優れた教員が多数勤務しており、その術を個のものとすることなく、学校全体に広げ、より組織的・計画的に道徳教育を推進する必要があると感じていたため、この学校研究への取り組みはよりタイムリーなものとなった。

(2) 学校評価の結果および生徒の実態から

K中学校では、毎年年度末に、教職員自身による自己評価、生徒評価、保護者評価、学校関係者評価の4種類の学校評価を実施し、PDCAサイクルに基づいて、学校の課題を明らかにしてその解決に取り組むことを実践している。平成26年度末の学校評価の結果から「いじめ・暴力のない安心・安全な学校づくり」が課題のひとつとして明らかになった。当時K中学校の生徒たちは、皆素直で明るい学校生活を送っていたが、まれにメールやSNSに起因する生徒間のトラブルが起こることがあったので、生徒の心根にアプローチし一人一人の思いを大切にする道徳教育の実践、さらに言語活動を重視して、生徒同士が話し合いによって心を磨きあいよりよい人間関係を築くことが重要であると考えた。

3 研究の仮説と期待できる効果

あらためてK中学校が取り組んだ学校研究の仮説をまとめると次のようになる。

言語活動（話し合い）を取り入れた道徳教育を推進することによって、より良い人間関係を築くことができ、学校教育目標「心を磨く 自ら動く」を実現することができるであろう。
--

また、この実践によって、次の3点を期待できると考えた。

- ① 「いじめ・暴力のない安心・安全な学校づくり」の実現につながる。
- ② 全教職員が参画する道徳教育推進体制の構築につながる。
- ③ 「特別の教科道徳」のスタートを控えての準備としても有効である。

4 研究の内容と構想

K中学校の研究実践の概要をまとめておくことにする。次ページに研究構想図を掲載したので併せて参照していただきたい。

- ①言語活動（話し合い）を取り入れた道徳の授業づくり

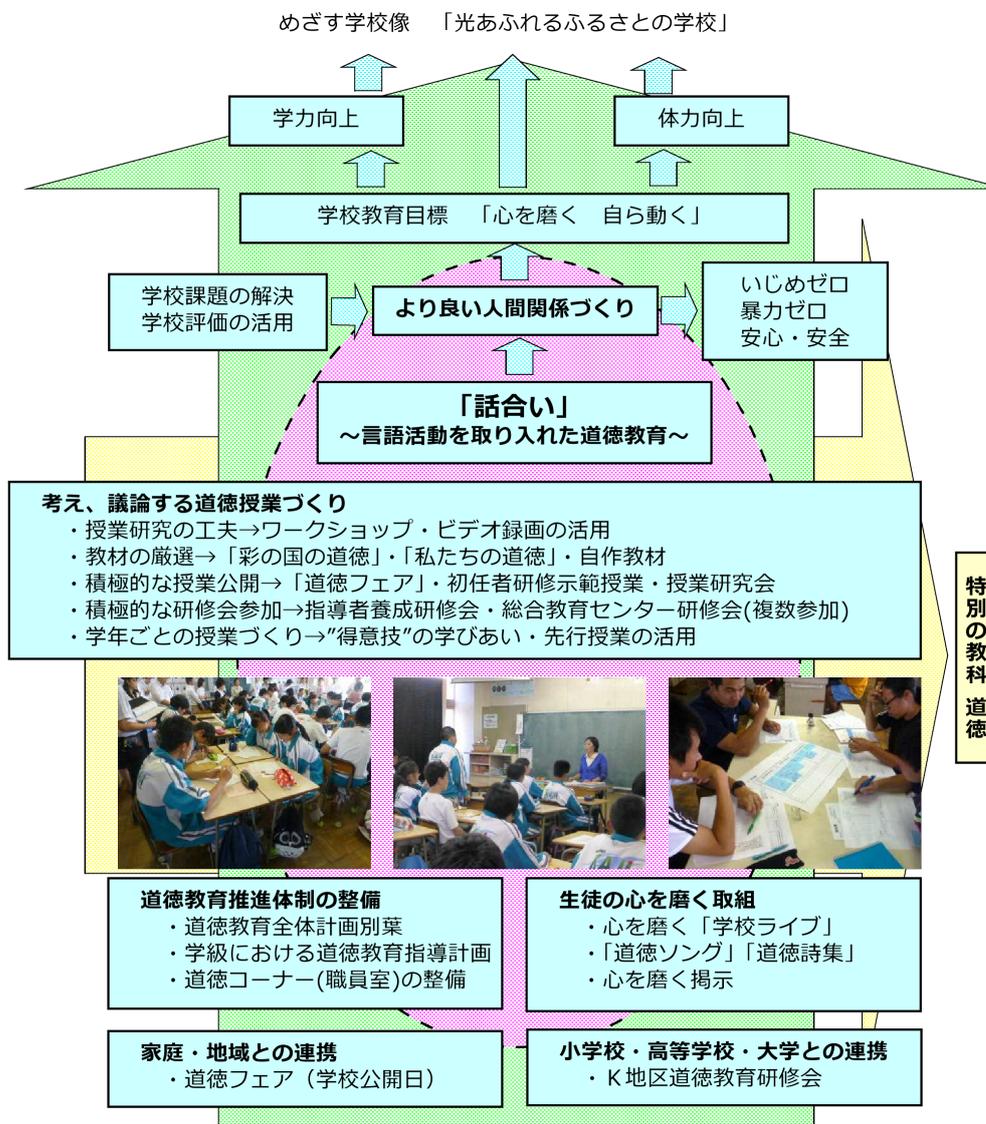
全教職員が組織的に取り組む授業研究／「彩の国の道徳」「私たちの道徳」及び自作教材の活用

- ②全教職員が参画する道徳教育推進体制づくり

- ③家庭・地域と連携した道徳教育の推進

K地区道徳教育研修会の実施／道徳フェア（学校公開日）の実施

研究構想図



道徳

教育全体計画別葉の作成/学級における道徳教育指導計画の整備/K中学校道徳ソングの作成/心を磨く道徳詩集の作成/心を磨く学校ライブの実施/心を磨く掲示の取組/道徳コーナー(職員室内)の整備

5 研究の経過

- H26. 11. 17 K地区道徳教育研修会
- H27. 5. 11 校内授業研究会

- H27. 6. 11 初任者研修における道徳示範授業公開（2学級）
H27. 6. 13 道徳フェア（学校公開日における道徳授業の公開）
H27. 7. 13 校内授業研究会（T1=校長）
H27. 8. 5 S県立総合教育センター「明るく楽しい道徳授業づくり研修会」に
3名の教員が参加
H27. 8. 20～21 校内研修会（道徳授業づくり・各学年）
H27. 8. 24～26 道徳教育指導者養成研修会（文部科学省主催）に参加（道徳教育推進
教師）
H27. 9. 28 校内授業研究会（各学年1学級）
H27. 10. 30 研究発表会（S県道徳教育研究推進モデル校中間発表会・H市教育研究
会委嘱研究発表会）
H28. 1. 9 心を磨く学校ライブ（歌う道徳講師・大野靖之氏）
H28. 1～2 先進校視察（4校）
H28. 3. 7 校内授業研究会
H28. 6. 18 道徳フェア（学校公開日における道徳授業の公開）
H28. 8. 2 S県立総合教育センター「考え、議論する道徳授業づくり研修会」
3名の教員が参加
H28. 8. 22～23 校内研修会（道徳授業づくり・各学年）
H28. 9. 9 校内授業研究会（各学年1学級）
H28. 10. 7 K中学校道徳ソング」を歌う集い（兼：ふれあい講演会）
講師：大野靖之氏
H28. 10. 28 研究発表会（S県道徳教育研究推進モデル校研究発表会）

6 研究の実際（具体的な活動）

（1）小学校・高等学校・大学との連携→「K治地区道徳教育研修会」の実施

- 期 日 平成26年11月17日（月）
○会 場 H市立K中学校
○テーマ 「話し合い」で心を磨く
○目 的 ①「話し合い」を活かして心を育む授業づくりの術を学ぶ。
②道徳の教科化に向けての情報を入手して教育活動に生かす。
③近隣の小学校・中学校・高等学校・大学が連携して「心の教育」を学ぶ機会とす
る。
○指導者 S県立総合教育センター教育課程担当指導主事兼所員 安元 信幸 氏
H市教育センター指導主事 高島ゆかり 氏
○内容及び日程
12:15 指導者2名来校 打合せ
13:30 研修参加者来校 受付：体育館入口
第1部
13:40～14:30 道徳の時間 公開

2年3組 3-(3)人間のすばらしさb「ネパールのビール」 Y教諭
→授業会場…3階総合学習室(3階西端)

3年1組 1-(3)誠実に生きるb「償い」 O教諭
→授業会場…美術室(2階東端)

14:40~15:20 授業研究会(授業者反省5分→ワークショップ^o20分→御指導15分)
2-3→会議室(2階西端) 3-1→美術室

第2部

15:30~16:30 講演(含:模擬授業) 体育館

S県立総合教育センター教育課程担当指導主事兼所員 安元 信幸 氏

*中央に模擬教室を準備し、生徒役の参加者を相手に模擬授業を行う形で講演。(生徒役=K小10名・KH小10名・K中10名・M高5名・S大5名 あらかじめ決めておく。)生徒役以外の参加者は、模擬教室を囲む形で着席して、模擬授業を参観し講演を聴く。

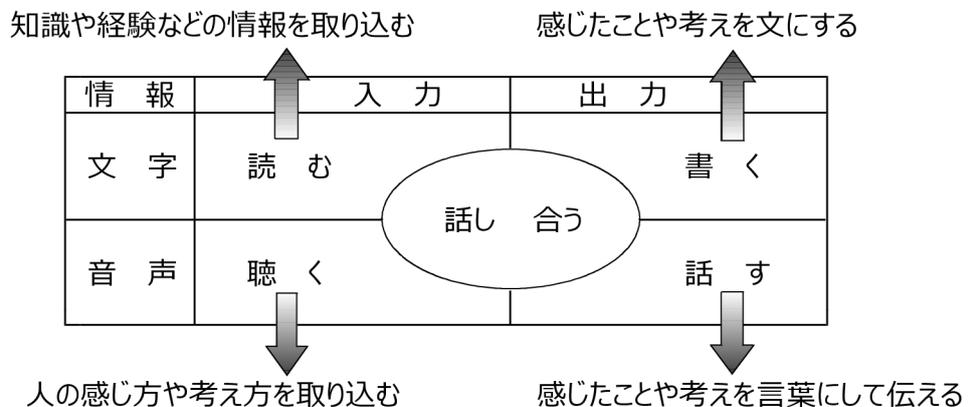
○外部参加者への連絡事項

- 第1部、第2部への参加人数を事前に加治中までFAXで報告。その際、次の点について明らかに。
 - ・第1部…2-3, 3-1のどちらの授業を参観するか?
 - ・第2部…生徒役で参加するか、生徒役以外の参加か?
- 授業参観者は、水色のポストイットカード^oに良かった点、ピンク色のポストイットカード^oに改善点・改善策を記入しながら、授業を参観。授業後、このポストイットカード^oをもとに、ワークショップ^oを実施。
- 講演会では、生徒役は中央模擬教室の席に、生徒役以外は周囲の席に着席。模擬授業を含む形で講演会を実施。

(2)「言語活動を取り入れる」とは(H27.6.5の校内授業研究会資料より)

①言語活動とは…

→言語(文字・音声)を媒介にした知的活動



②道徳の時間の指導過程の中で考えると…

- 教材範読 →読むと聴くを同時進行で行い、教材の内容理解を深める
- 個人の考え →書いてから話すことによって、よりわかりやすく伝えられる
- 話合い →メモをとったり、教材を見たりしながら話し合えば、4つの機能を使う最も高度な活動になる

◆ 2人の会話から4人、6人の話合いに発展させる

➡ 多様な感じ方や考え方との出会い

◆ 価値に対する考え方（価値観）を…

認め合う：違いを受け入れる＝相手に共感し、尊重する（傾聴と受容）



磨き合う：① より正当性の高い価値観を探る

（*コミュニケーション的行為の理論）

② 対立する価値の両立を図る（第3の案）

- 感想（まとめ）→書くことによって自分の考えをまとめ、その時間の振り返りができる

*コミュニケーション的行為の理論（1981 ハーバーマス）

- a 人は対話を通して自分の考え方と他の人の考え方との調整をしたり、他の人との関係のあり方を見直している。
- b 他の人との関係を作り直していく大きな柱が道徳的な価値や規範である。

*話合いのルール

- a 誰も自分の言うことをじゃまされてはならない。
（ある特定の人だけがしゃべれるというのでは、話合いが成り立たない。）
- b 自分の意見は理由をつけて言う。
（私は○○だと思う。なぜなら××だからと言う。考えの背景（根拠）が重要。）
- c 他人の意見には、はっきり賛成か反対かの態度表明をする。
（誰かが意見を言ったら、次に意見を言う人はその意見を踏まえて発言する。）
- d 理由が納得できたら、その意見は正しいと認める。
（根拠がはっきりしており、誰も否定できなかつたらその意見は正しいと認める。）
- e 意見を変えてもよい。ただし、その理由を言う。
（より正しい考え方に気づけば、それに変わってもかまわない。ただし、変えた理由を述べる。）
- f みんなが納得できる理由に対してはそれに従わなければならない。
（決まったらその通りにやるのは話合いの大切な前提。）

(3) 道徳フェアの実施 (学校公開日における道徳授業の積極的な公開)

下に示したのは、平成28年6月18日(土・学校公開日)のK中学校の授業時間割一覧である。

	1年				2年			3年				特別支援
	1	2	3	4	1	2	3	1	2	3	4	
1校時	技	国	体	体	国	社	英	社	家	国	数	数学
	木工	教室	体育館		教室	教室	教室	教室	教室	教室	教室	W3
2校時	学年道徳				社	英	道	道	道	道	道	国語
	体育館				教室	教室	総学	教室	教室	教室	教室	W3
3校時	国	道	理	道	学年道徳			学活	学活	学活	学活	作業
	教室	教室	1理	教室	体育館			教室	教室	教室	教室	W3
4校時	道	理	道	道	道	道	道	学年道徳				作業
	教室	教室	教室	教室	教室	教室	教室	体育館				W3
昼食												
5校時	数	英	道	理	数	道	国	理	英	数	国	道徳
	教室	教室	教室	1理	教室	総学	教室	2理	教室	教室	教室	W3

K中学校では毎年度に2回、土曜日に学校公開日を設けて、家庭・地域の人々に教育活動を広く公開する取り組みを行っている。この機会に、より多くの道徳の授業を公開して、生徒が話し合いによって心を磨く様子を参観していただくことに努め、「道徳フェア」と銘打った公開授業を実施した。

①全ての学級で道徳の授業を公開→全ての教員が道徳の授業を公開

当初「全ての学級で道徳の授業を公開」することを基本とし、平成27年度の学校公開日には全ての学級で1時間ずつ、道徳の授業を公開した。研究が進んだ翌平成28年度には、学年主任や教務主任等、学級担任でない教員も道徳の授業をすることに意欲的に取り組み、臨時時間割の中に道徳のコマが増えた。どの授業においても、授業者の発問をきっかけにして、生徒たちが周囲の者と、あるいはグループで活発に話し合いを展開し、人としての望ましい生き方を模索する姿が見られた。校内に「全ての教員が道徳の授業づくりを楽しんでいる」という雰囲気が生まれ、K中学校の道徳教育は確実に一歩前進した。

②学年道徳の取組 (ゲストティーチャーを招いて/学年主任・管理職も)

道徳の授業は基本的には学級単位で行われるものであるが、K中学校では学年全体を一堂に集めて実施する「学年道徳」の取組も積極的に行った。道徳フェアにおいても、平成27年度は県立総合教育センターから指導主事をゲストティーチャーとして招いて「学年道徳」を実施・公開し、平成28年度は学年主任や管理職が「学年道徳」の授業者を務めた。学年全体の生徒の中で自らの思いを語る(発表する)ことは生徒にとってハードルの高いものかと当初心配したが、意外に容易にそれを乗り越えた生徒が多く、生徒の心の成長が見られたのはたいへんうれしかった。

(4) 道徳教材の選択及び自作教材の作成と活用

道徳が教科化され「特別の教科道徳」になることにあたり、「道徳の時間」は「道徳の授業」、そして「資料」は「教材」と呼ばれることになるであろう。1時間1時間の授業において、その時間のねらいにせまるためには、使用する教材の選択が重要である。業者が編集・発行する教科書（今までは「副読本」と呼ばれていた）に加えて、文部科学省が発行している「私たちの道徳」や埼玉県教育委員会が発行している「彩の国の道徳」などの中からよりよい教材を選んで道徳の授業で使用するよう、各学校において、道徳教育推進教師や道徳主任を中心に年間指導計画を立てている。

K中学校では、さらに教員が自作教材の開発に取り組むことにより、生徒や地域の実態にあった教材の作成に取り組んだ。自作教材の2例を以下に紹介する。

①「忘れ物するなよ」…授業フェア(H28.6.18)・学年道徳(3年)で使用

〈要旨〉毎日忘れ物をするAくん。主人公の僕は「忘れ物するなよ」と声をかける。班の仲間も同様にたびたび「忘れ物するなよ」と声をかける。しかし、Aくんはこの声かけを「いじめられている」と受け止めて不登校になってしまう。「忘れ物するなよ」と声をかけることはいじめなのだろうか？

「忘れ物するなよ」

となりの席のAくんは、毎日忘れ物をする。

授業の道具、提出物、ジャージ、給食のエプロンやテーブルクロス…。ホントに毎日だ。

よく黒板に名前を張り出される。Aくんは「しまった！」と言うが、やっぱりまた忘れる。

僕はAくんとは小学校の時から同じクラスで仲良しなので、何とかAくんに忘れ物をしないでほしいと思っている。だから「A、忘れ物するなよ」とよく声をかける。

班の仲間もその思いは同じだ。

特に給食のテーブルクロスを忘れてきたときは、班の仲間も迷惑する。

だからみんなで口々に声をかける。「A、忘れ物するなよ」と…。

最近、Aくんの口数が減った。何だかよそよそしくなった。

でも忘れ物は相変わらずだ。だから僕はやっぱり声をかける。

「A、明日こそ忘れ物するなよ」…。

班の仲間も声をかける。「明日、絶対に持ってきてよ、テーブルクロス。忘れないでよ！」…。

ある日、Aくんが欠席した。次の日も休んだ。その次の日も、またその次の日も…。

僕は電話をかけてみた。「A、どうしたの？」

「別に…。」Aくんはそっけなかった。

また数日が過ぎた。Aくんはずーっと休んだままだった。

ある日の放課後、僕は担任の先生に呼ばれた。

「Aが、『班のみんなに嫌なことを言われている。いじめられているから学校に行けない。』と言っている。君はAと仲がよかったが、何か思い当たることはないか？」

…。

え？、「嫌なことを言われている」だって…？。

「いじめられている」だって…？。

②「祭囃子」…研究発表会 (H28. 10. 28) ・道徳授業 (2年) で使用

〈要旨〉主人公の僕は「飯能囃子連」の一員である。町内の大人の方々から指導を受けながら太鼓や笛の腕を上げ「次のお祭ではヒーローになれる」と期待される。飯能祭が数日後に迫ったある日、僕の学級でインフルエンザが流行し学級閉鎖に。担任の先生から「今、元気な者も自宅を出てはいけない」と指導を受けるが…。

祭囃子

ぼくは、「飯能囃子連」の一員である。

ここ数日は、もうすぐ行われる「飯能祭り」に向けて、毎晩「お囃子」の練習が行われている。「飯能祭り」は毎年11月のはじめに行われる、ぼくたちの町の一大行事である。

練習には、自治会の会長さんから小学生まで、たくさんの人が集まっている。

そこでは、太鼓のたたき方や笛のふき方などはもちろん、道具の準備や片づけ、挨拶や返事など、いろいろなことが、大人からこどもへ、先輩から後輩へと伝えられている。

この間、ぼくが少し遅刻して練習に行ったとき、〇〇さんから「遅いぞ！」としかられてしまった。「遅刻するのも悪いが、おまえは今、だまってこの部屋に入って来た。それが悪い。そういう時は『遅れてすみません』くらい言うもんだ。」〇〇さんは大きな声でぼくに言った。ぼくは一瞬、カッとしたが、よく考えると〇〇さんの言うとおりのので、すぐに心を落ちつけて「すみません。」と謝った。

その日、〇〇さんはぼくの太鼓をつきっきりで指導してくれた。そして練習の終わりに「おまえ、上手になったな。これなら、今度の飯能祭りではヒーローになれるぞ。それに、町内のお囃子をずっと受け継いでもらえる。期待しているぞ。小学生にも教え

てやってくれ。」とほめてくれた。

練習帰り、ぼくは何だか足取りが軽かった。これからも〇〇さんについていこうと思っていた。

飯能祭りが数日後にせまったある日のこと、ぼくの学級では多くの友達がインフルエンザで学校を休んだ。1時間目が終わると、担任の先生が教室にやってきて言った。

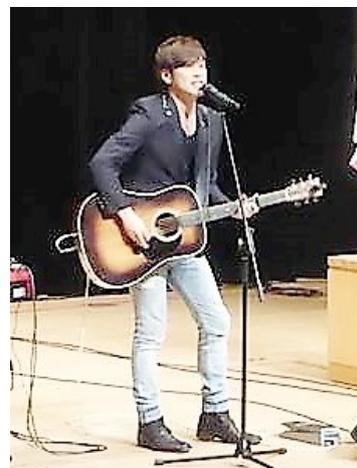
「欠席者が多いので、きょうはこれで下校。このクラスは、来週の月曜まで学級閉鎖とする。インフルエンザの流行を防ぐための学級閉鎖なので、今、元気な者も含めて、来週の月曜日まで絶対に自宅を出ないように。」「やったー。」学級閉鎖と聞いて、歓声があがった。でも、ぼくははっとした。学校が休みになるのは正直言ってうれしい。でも今度の週末は飯能祭りだ。今夜だって練習がある。「自宅を出ないように」と言われても…。

自宅に向かいながら、担任の先生が言った「絶対に自宅を出ないように。」という言葉と、囃子連の〇〇さんの「飯能祭りではヒーローになれるぞ。期待している。」という言葉が、頭の中でぐるぐる回っていた。

(5) 歌う道徳講師との連携および道徳ソングの作成

道徳教育は道徳の授業のみで行うものではない。心を磨く機会は、全ての教育活動の中に存在する。K中学校では道徳教育の研究を進める中で、学校の中に心を磨く雰囲気をつくることを重視した。その方策の一つに、歌う道徳講師・大野靖之氏との連携がある。

大野靖之氏は、1982年4月19日生まれ、千葉県印西市出身のシンガーソングライターで、2005年7月「心のノート／あいしてる」でメジャーデビューした。命、夢、家族といったテーマを歌う作風から「歌う道徳講師」と呼ばれ、全国の小・中学・高校で900回を超える学校ライブを行っている。その功績が高く評価されて、2008年7月には青年版国民栄誉賞グランプリ内閣総理大臣奨励賞を受賞。6校の校歌作成に関わった他、平成28年度より開隆堂出版から出版された家庭科の教科書に歌詞が掲載されるなど、他に類を見ない道を歩み続けている。2016年1月には、きずな出版より著書「大切なものほどそばにある」も発売された。



K中学校では大野氏にアプローチし、まず、平成28年1月に「心を磨く学校ライブ」を開催。体育館に集まった全校生徒、教職員、保護者、地域の人々は、大野氏の歌声に酔い、その歌詞やトークによって心が洗われるひとときを過ごした。そしてこの日に、楽屋で大野氏と雑談する中で生まれたのが「K中学校道徳ソング作成プロジェクト」だった。

「K中学校生徒作詞、大野靖之氏作曲によるK中学校だけの『道徳ソング』を作る

う！」というのが、このプロジェクトの内容であった。K中学校が「道徳教育全体計画」の中に掲げている重点指導項目が「向上心」と「思いやり」であることから、この2つのキーワードのいずれかを歌詞に盛り込むことを条件に、生徒の作詞への取り組みが始まった。

教室で道徳や学級活動の時間に、さらに集会活動においても、自らの思いを詩にこめることを繰り返し繰り返し指導しながら、100篇を超える生徒の詩が集まってきたのは平成28年7月のことだった。集まった詩に道徳教育部の教員が全て目を通し、形式を整えて、1次選考通過優秀作品6篇を決定。そこから全校生徒の投票によって最優秀作品1篇が選ばれた。

中学3年生の女子生徒2名の合作によるその詩の題名は「ありがとう」。そこには、友達を思いやる心が生き生きと表現されていた。さっそく大野靖之氏にその詩を送ると、約1か月後、素敵な曲がつけられて帰ってきた。K中学校道徳ソング「ありがとう」の完成である。

この曲は、毎日の校内放送によって流され、数日後には生徒たちが廊下を歩きながら口ずさむまでになった。平成28年10月初旬には大野靖之氏を学校に招いて「K中学校道徳ソングを歌う集い」を開催。さらに同月下旬の「K中学校道徳教育研究発表会」において、大野靖之氏と全校生徒による元気な歌声が体育館いっぱいに響いた。

K中学校道徳ソング「ありがとう」

作詞 S・Sさん/S・Yさん(3年)

作曲 歌う道徳講師・大野靖之

ありがとう ありがとう 思い出をありがとう
ありがとう ありがとう 笑顔をありがとう
君が隣にいてだけで どれだけ笑顔になれたか
たくさんの優しさをくれた君は もうそこにはいない
君が眠りに落ちたとき 何もできなかった
「ありがとう」って言えてたら 後悔しなかったのに
たくさんケンカしてすれちがって そこから生まれた友情
私 君の親友…? そう言っていていいのかな?
君は楽しかったのかな? 今はもう聞けない君の本音
もっと素直になれば 素直になれば良かったのに…
ありがとう ありがとう 思い出をありがとう
ありがとう ありがとう 笑顔をありがとう
ブカツで声をかけあいながら ともに汗した日々
ビックリした君のショックヨク(食欲) そしてヘンガオ(変顔)
それからあの日クレーンゲームでスケボーとったよね
よみがえるたくさんの思い出忘れない 私きっと
この声が届けば 見える世界は色鮮やかになるのに…

また見たいな 今は写真でしか見れないけど
「あのころが帰ってきたら」 今はもう聞けない君の声
君と一緒になかったら 出会えなかった日々ばかり
ありがとう ありがとう 思い出をありがとう
ありがとう ありがとう 笑顔をありがとう
私 君の分まで生きるよ 君の分も一生懸命生きるね
やっと言えるよ 君への「ありがとう」
君の心まで届かないかもしれないけど
ありがとう ありがとう 思い出をありがとう
ありがとう ありがとう 笑顔をありがとう
ありがとう ありがとう 思い出をありがとう
ありがとう ありがとう 笑顔をありがとう

さらに、道徳教育研究発表会の開催にあたって、私が記したこの曲に関わる思いを以下に紹介したい。

日常の「ありがたさ」を再確認しよう！
…道徳ソング「ありがとう」によせて…

3年生女子生徒の作詞、大野靖之さんの作曲によって生まれたK中学校道徳ソング「ありがとう」…。もしも仲の良い友達が他界してしまったら…という仮定のもとに「たくさんの思い出をありがとう」と歌い上げるこの曲…。部活動、変顔、クレーンゲーム…。具体的な思い出の場面が次々にあらわれる歌詞は、作曲者の大野さんから「情景が浮かぶし、言葉がストレートなので、とても心に届きやすい。」…と好評価をいただいた。

「失って初めてわかることがある（あるいは、大切なことに気づく）」という話をよく聞く。道徳ソング「ありがとう」の歌詞は、まさにその一例だと思う。「父母が活着ているうちにもっと親孝行しておけばよかった」という言葉を耳にすることもあるし、「病気になるて初めて健康のありがたさがわかる」などというのも似た話かも知れない。

毎日何気なく過ごし、目の前を過ぎていく時の流れ。当たり前のように感じているできごとのあれこれ…。でも、実はそのひとつひとつ、1秒1秒が、「かけがえのないもの」なのではないだろうか…？

K中生ひとりひとりに立ち返ってみれば、友達が他界してしまわずとも（そんなことがあつては困る！）、時が過ぎればこの学び舎からみんな巣立っていくわけだし、いつかバラバラになってしまうわけだし…。…そう考えると、やっぱりふだんの学校生活の一場面一場面を、思いっきり大切にしたい！そう願わずにはられない。

日常の「ありがたさ」を再確認し、周囲の人に向ける笑顔（表情）や発する言の葉のひとつ

ひとつを大切に、毎日を過ごしていきたいものである。

7 おわりに

K中学校では、道徳教育の研究に取り組むことによって、生徒たちの中に明らかに「タレント」が増えた。ここで言う「タレント」とは、集団の中で確かな自分の思いを持ち、それを堂々と言葉や行動で表現できる者のことである。それは日々の学習活動に躍動をもたらし、特に体育祭、合唱祭、3年生を送る会等の行事においては、多くの生徒が笑顔いっぱいの活躍を見せた。学力向上や体力向上にはっきりとした成果が表れるのはもう少し先のことになりそうだが、K中学校が目指している「光あふれるふるさとの学校」づくりは、確実に一歩前進したように思う。

「いじめ」「青少年の自殺」等、心を痛める事件が数多く報道される時代になった。子供たちの心を育むことに、私たちはより真剣に取り組まなければならない。学校教育において「道徳」が教科化される理由も、実はここにあると聞く。本来、子供たちは素直で明るく、いきいきと魅力的で、むしろ周囲の大人たちを元気にしてくれる、そんな存在であると思う。子供たちの笑顔があふれる学校、町、そして国をつくっていくことが、きっと学校、町、国の未来を創造していくことになるのだと、私は強く信じている。

K中学校の道徳に関する研究、すなわち子供たちの心を磨く取組は、もちろん今も続いている。

【参考文献】

- 「中学校学習指導要領」文部科学省 2008年3月
- 「中学校学習指導要領解説 道徳編」文部科学省 2008年3月
- 「私たちの道徳 中学校」文部科学省
- 「埼玉県中学校教育課程指導資料」埼玉県教育委員会 2010年3月
- 「彩の国の道徳（中学校）自分を見つめて」埼玉県教育委員会 2010年2月
- 「中学校『自作資料集』No.3」（松原 好広）2008年1月
- 「大切なものほどそばにある 大人になる君に伝えたいこと」（大野靖之）2016年1月
- 「中学校におけるいじめ、不登校に関する実践的指導の開発研究」（渡邊 満）1998年
- 「心に響く道徳指導へ向けた工夫のあり方について2」兵庫教育大学研究紀要 2006年